

サイバーセキュリティ、ソフトウェアアップデート マネジメントシステムの更新審査への取組

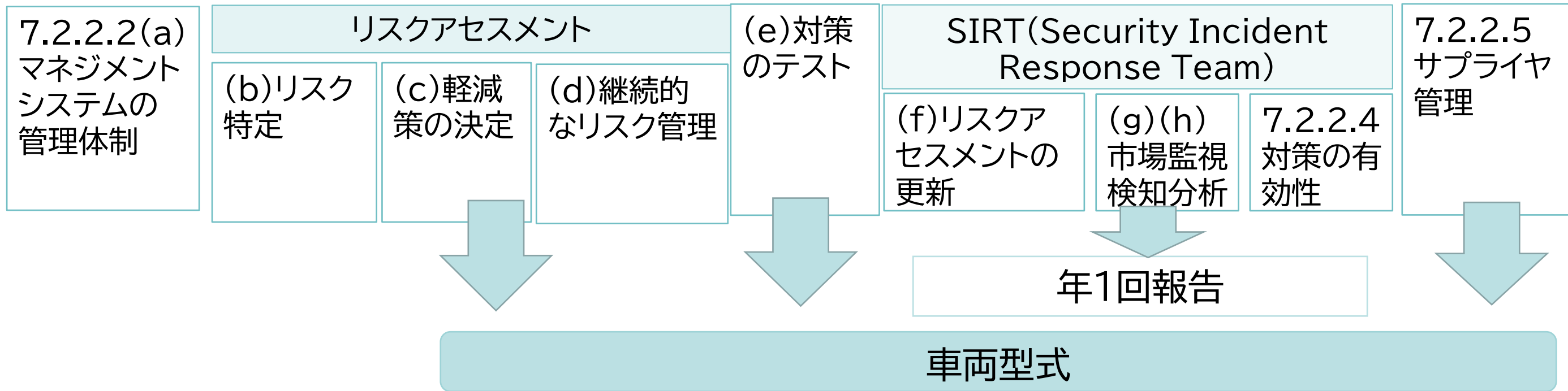
自動車認証審査部 情報セキュリティ審査センター ※小林 一樹 榎本 恵

情報セキュリティ審査センター

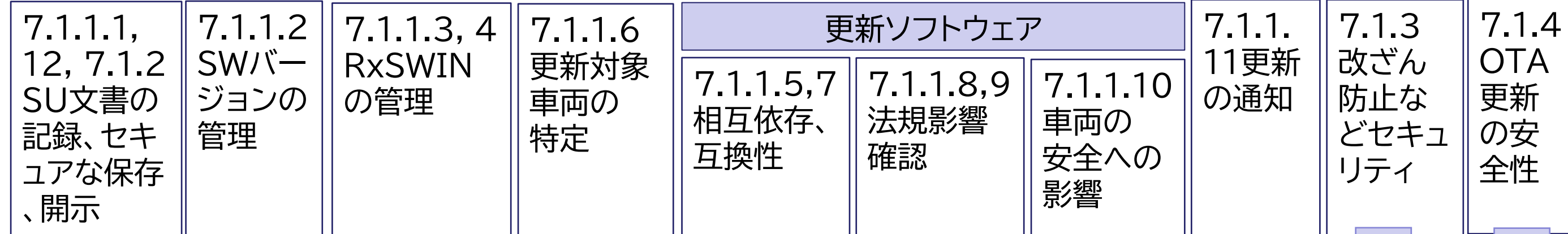
UN-R155, 156 マネジメントシステム要件



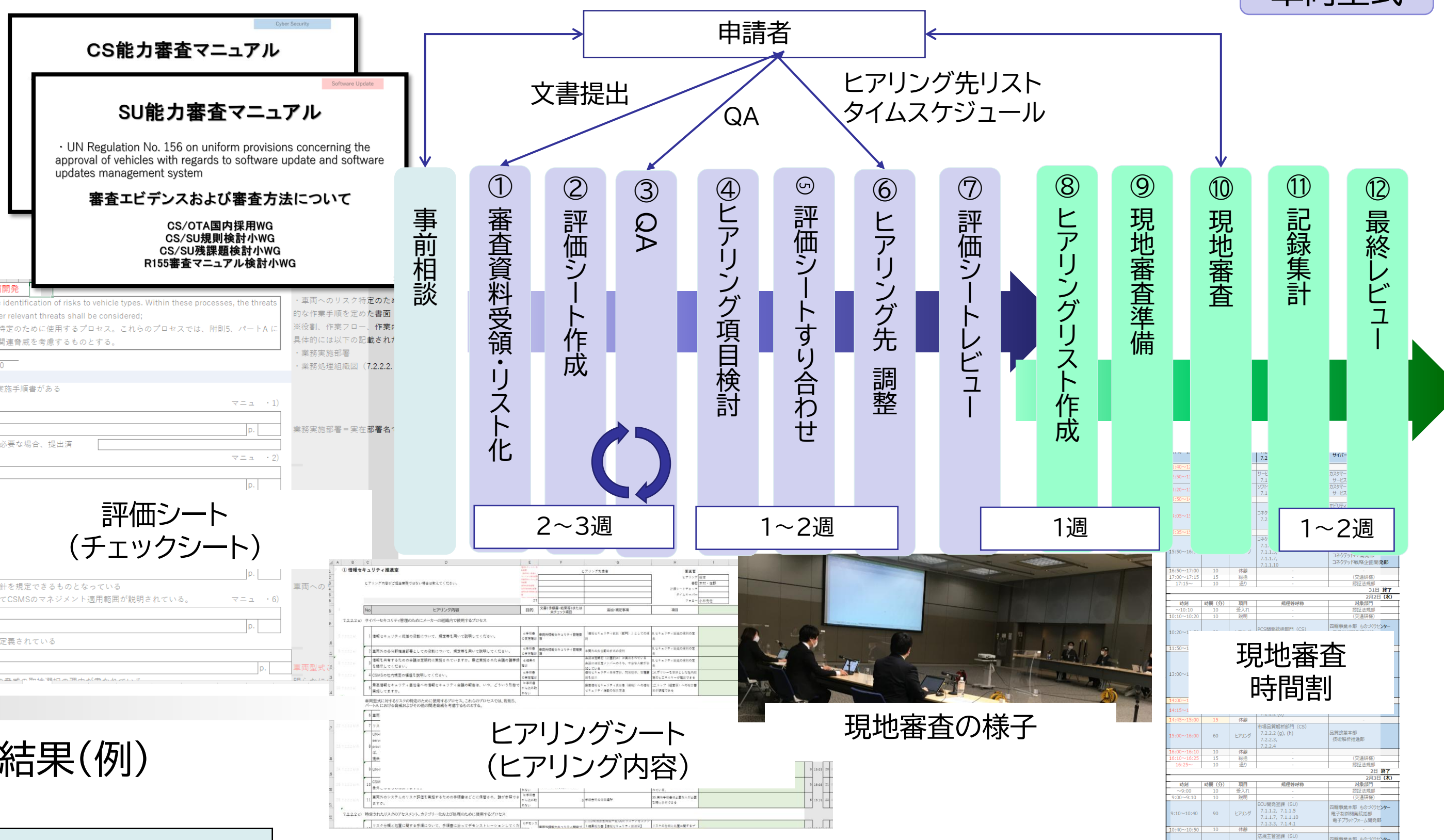
R155 サイバーセキュリティ



R156 ソフトウェアアップデート



マネジメントシステム審査手順



更新審査への準備

- 評価シートのチェック項目の見直し
 - ・ 現実的なプロセス、技術との整合
 - ・ プロセスの運用課題とその解決
- 審査マニュアルの見直し
 - ・ 実態に即した内容
 - ・ 法規解釈の共通化
 - ・ 継続審査を想定した内容
 - ・ 年次報告内容
 - ・ MSの変更の考え方
- 現地審査の効率化

更新審査結果

- 「プロセスの運用課題とその解決」ヒアリング結果(例)
 - ・ 3年間で順調に運用、次のステップは効率化

CSMS全体管理のプロセス(R155 7.2.2.2 (a))

- ・ 日々改善している。プロセスを根付かせることが重要
- ・ サイバー脅威は常に変更しているため、対応も常時変化させていくことが課題
- ・ プロセスの改善要望はなかったが、運用の工夫を行っている
- ・ 効率化について検討している
- ・ 今後の環境変化に追従していくことが課題

リスクアセスメントのプロセス(R155 7.2.2.2 (b)(c)(d)(f))

- ・ 運用面、チェックシートなどの改善をしている
- ・ リスクアセスメントの実施タイミングを協議している
- ・ 伝わりやすい改善履歴の残し方など改善している
- ・ 効率化、軽減策のベストプラクティスの展開

SIRTのプロセス(R155 7.2.2.2 (g)(h), 7.2.2.3, 7.2.2.4)

- ・ インシデント報告書様式を作成し、報告をしやすくした
- ・ 脆弱性リスト管理、トリアージの業務量が課題。AIの活用などを検討
- ・ インシデント訓練を実施
- ・ 手順の明確化

- 実績
設問数は変わらず、ヒアリング時間短縮

SUMSのプロセス(R156)

- ・ 管理サーバーへの更新登録漏れがあったため見直し部署を新設し改善
- ・ SU型式対象かどうかの詳細判断フローを策定
- ・ 従来の設計資料とは別にエビデンス保管一元化を実施
- ・ 構築したプロセスについて教育、e-learningを実施
- ・ SU実行時のプロセスフローを法規影響の有無にかかわらず一本化した
- ・ RXSWINの強制適用に対する社内整備
- ・ 既存のMS体系に基づき、日常の改善を行っている。
- ・ ソフトウェア更新の量が多いので、管理が課題
- ・ 以前から実施していることだが、エビデンスを残していくことは良い
- ・ 有線更新の場合などの手作業によるミスが課題
- ・ SUMS以前よりこのプロセスは存在していたが、プロセスとして定義されたことによる意識づけが課題。
- ・ 車両への書き間違い事例に対し原因調査と対策を行った
- ・ システム化されているため課題はない
- ・ 有線更新の場合などの手作業によるミスが課題

今後へ向けて

- 時代は、車両の審査から、車両を生み出すプロセスの審査へ変化
- 審査官の育成と力量向上
 - ・ 他のUN規則に広がるマネジメントシステム認証への対応
 - ・ 審査経験だけでなく、チェック項目の見直しを通じて法規要件の理解を深める
- ISO/IEC 17021準拠
- 継続的な審査マニュアルの見直し

	UN-R155(CSMS)		UN-R156(SUMS)	
	初回	更新	初回	更新
1. 部門数	8.8 (1.3)	8.3(1.9)	7.2(1.8)	6.2 (1.1)
2. 時間 (h)	8.8 (1.7)	7.4 (1.0)	6.3 (1.6)	4.9 (1.0)
3. 設問数	84.7 (32.5)	81.3 (30.7)	45.5 (17.0)	56.7 (11.9)

平均 (標準偏差)